

第3回中津川市総合計画審議会

平成26年1月14日（火）

午前10時00分 開 会

1 開会

2 会長あいさつ

3 審議事項

（大西会長） 綿密な作業をしていただいた両副会長から、本日は丸山輝城副会長に議事運営をお願いしたいが、皆さんよろしいか。

～異議なし～

（大西会長） それでは丸山輝城副会長に進行をお願いします。

（丸山輝城副会長） 議長は会長が務めるので、私は会長の命により議事の進行を務めますのでお願いします。

12月14日の全体会議で皆さんから活発な意見や提案をいただいた。また、それに至るまでに各部会で5回にわたる濃密な議論をしていただいて12月14日に至っている。その間に、各部会の思いを披歴してもらう機会が少なかったと三役で議論をした。その点も踏まえながら本日は3部会の考え方を各部会長から発表をいただいて、その後基本構想の骨子案、分野別体系に議論していきたい。

（1）①部会の考える将来都市像

（丸山輝城副会長） 部会の考える将来都市像の発表について、最初に産業部会からお願いします。

（岡山委員） 産業部会の担当分野は、工業振興、商業振興、観光振興、農業振興、林業振興、移住・定住推進で、過去5回の部会を開催し、産業部会の考える将来都市像を導き出した。

産業部会の考える将来都市像は、「美しい景観に囲まれ 活気あふれるまち なかつがわ」とした。

この将来都市像に基づく中津川市のあるべき姿として、市内企業は経営規模が拡大し、新たな企業の進出や起業により若者が働く場所が多くあり、当市で育った若者が市内にとどまってくれる、市外からも若者が来てくれて活気があること。また、農林業の後継者がしっかり確保され、田園や森林の美しい景観が保たれていること。美しい景観が保たれていることで観光振興にもつながり、中津川市ならではのものを目当てに多くの観光客が訪れ、当市の顔である中心市街地がにぎわっていることです。

すなわち、美しい自然はそのままに、さまざまな人や企業、それらと一緒に知識・技術や情報などが集まってきてにぎわいがあるイメージとした。

まず、当市の現状、課題について審議を行い、各分野について次のような主な課題を取り上げた。

工業振興では、中小企業の多くが営業や開発に時間がかけられないことや、大手企業や納入先の企業の経営方針の影響により、経営の安定化や経営基盤の強化をはかるという課題。

商業振興では、来客の減少による後継者不足から中心市街地の空洞化が進行しているという課題、

観光振興では、観光の素材は沢山あるものの、その素材が十分活かしきれていないという課題。

農業振興では、効率的、安定的経営を行うことが困難で、後継者不足や耕作放棄などによる農地の荒廃の抑止や鳥獣害被害の防止という課題。

林業振興では、木材価格の低迷などによる後継者不足や、森林の境界の明確化と森林の継承がなされず森林整備の遅れているという課題。

また、農業と林業は、後継者を確保できる経営基盤の強化や、農地、森林が持つ多機能性の観点から、いかに農地、森林を守っていくかという課題。

移住・定住推進では産業という括りではできないところもあるが、人口流出に市の姿勢も待ちの状態であり、また、当市の各地域はまとまりが良いことが、新しく入ってくる人にはかえって地域になじみづらく、これを改善するという課題。

以上のような課題を審議し、冒頭申し上げた将来都市を導き出した。将来都市像に導くための課題の裏に潜んでいる問題も、意見書という形で提案できたことは大変ありがたいことで、これが行政当局に審議の過程で深く理解していただくことを望む。

産業部会の全体の意見として、リニア駅や車両基地が建設されるという千載一遇のチャンス逃さないよう、産業全般の活性化を図り、市外への人口流出を食い止めるとともに、市外から働き手である若者を中心に多くの人が入り込んでくる環境、つまり当市に住んでみたいという環境づくり、いわゆる移住定住の施策に取り組んでほしい。

課題解決のための弊害として、行政の縦割りがあることから、この縦割りを撤廃し、横の連携で施策に取り組むことが重要であると考えている。このことを行政が十分認識したうえで、次期総合計画実現に向けて取り組まれることを期待したい。

(丸山輝城副会長) 部会の皆さんから加えるところがあればお願いします。

～意見なし～

(丸山輝城副会長) 防災・環境部会の発表をお願いします。

(丸山充信委員) 防災・環境部会が担当した分野は、防災・災害対策、防犯対策、ごみ・し尿対策、自然環境保全、地球温暖化対策、再生可能エネルギー、市民活動、地域コミュニティ、地域公共交通で、過去5回の部会を開催し、4つの分科会に分かれて議論を重ねて、防災・環境部会の考える将来都市像を導き出した。

防災・環境部会の考える将来都市像は、「人・水・緑が輝く活気に満ちたまち なかつがわ」とした。

この将来都市像に基づく中津川市のあるべき姿として、美しい自然がしっかりと守られ活用されていて、再生可能エネルギーの活用やごみの資源化など地球環境にやさしい取り組みがなされており、そんな環境の中で、災害への備えも行き届いていて、市民活動や地域コミュニティの活動が活発で、いきいきと暮らすことができる。

すなわち、美しい自然に囲まれ、人々が安心していきいきと地域で活躍していて、活気に満ちたイメージとした。

まず、当市の現状、課題について審議を行い、各分野において次のような主な課題を取り上げた。

防災・災害対策では、地球温暖化等によるゲリラ豪雨が多発し、恵那山系をはじめ、風化花崗岩の山腹崩壊の発生が危惧されること、また東海、東南海地震が発生した場合に大きな被害が予想され、いかに被害を小さくするかという課題。

災害時要援護者台帳の登録者数が増えないため、登録者を増やしていくことや、住宅耐震化が遅れており、耐震化を進めるという課題。

防犯対策では各地域で空き家、空き店舗が増えてきており、犯罪の温床となったり老朽化して倒壊による危険にどう対処していくかという課題。

ごみ、し尿対策では、環境センターに持ち込まれるごみの量が増加傾向にあり、減量化、資源化を進めるという課題。

また、し尿収集量は、下水道、合併浄化槽の普及により減少しているものの、施設の老朽化や収集・運搬費用が多額であるため、施設と収集・搬入を一体として効率化するとともに安定した稼働を確保するという課題。

自然環境保全では、希少な植物のデータベースを作成するなどして希少植物をはじめ豊かな自然をしっかりと守っていくという課題。

地球温暖化対策・再生可能エネルギーでは、当市の急峻な地形と豊富な水量を活用した小水力発電や、間伐材を活用した木質バイオマスの導入が考えられるが、水利権や採算性といった課題。

市民活動・地域コミュニティでは、地域自治組織の高齢化や人材が不足しており、地域活動を担う人材育成や若者の参加、市民活動団体のネットワーク化を図る課題。

地域公共交通では、利用者の減少が路線バスの便数削減や路線廃止につながり、コミュニティバスなどを導入しているが、運送事業者との競合、地域間格差が発生し、地域の高齢者の買い物や受診のための移動手段を確保するという課題。

以上のような課題を審議し、冒頭申し上げた将来都市を導き出した。

(丸山輝城副会長) 部会の皆さんから加えるところがあればお願いします。

～意見なし～

(丸山輝城副会長) 教育・文化スポーツ・福祉・医療部会の発表をお願いします。

(加藤 出委員) 当部会が担当した分野は生涯学習、スポーツ振興、国際交流、乳幼児教育、学校教育、文化振興、歴史・伝統芸能、少子化対策、子育て支援、地域医療、高齢者福祉、乳幼児福祉、障がい者福祉で、過去5回の部会を開催し、教育・文化スポーツ・

福祉・医療部会の考える将来都市像を導き出した。

当部会の考える将来都市像は、「子どもたちがたくましく育ち 誰もが安心していきいきと心豊かに暮らせるまち なかつがわ」で、これは、生涯学習、スポーツ振興、国際交流、乳幼児教育、学校教育、文化振興、歴史・伝統芸能、少子化対策、子育て支援分野における将来都市像「多くの子どもたちがたくましく育ち 活気あふれるまち なかつがわ」と、地域医療、高齢者福祉、乳幼児福祉、障がい者福祉分野における将来都市像「みんなが安心して、いきいきと暮らせるまち なかつがわ」をそれぞれ導き出し、そのうえで一つの将来都市像としてまとめた。

この将来都市像に基づく中津川市のあるべき姿についても、2つのあるべき姿、1つ目は将来を担う子どもたちが減ってしまうことなく、学校生活などや地域で勉強やスポーツを通じてたくましく、しっかりと自立した若者に育つこと。

そしてその若者が地域において当市の伝統や文化をしっかりと守り、引き継いでいくことができること。

すなわち、多くの子どもたちが、頼りになる若者として育ち、地域の伝統芸能などの文化をしっかりと守り盛んにし、地域に活力があるイメージというものと、2つ目は子どもからお年寄りまでみんなが健康で、病気になった場合でも医療サービスをしっかりと受けることができ、お年寄りや障がい者が住み慣れた地域で安心していきいきと心豊かに暮らすことができるまちという、2つの中津川市のあるべき姿を導き出し、そのうえで子どもからお年寄りまでみんなが安心していきいきと心豊かに暮らすことができ、子どもたちがたくましく育ち伝統・文化を引き継ぎ盛んにし活気があることという一つのあるべき姿にまとめたものとなっている。

当部会の審議としては、まず、当市の現状、課題について審議を行い、各分野において次のような主な課題を取り上げた。

生涯学習では、核家族化や地域におけるつながりの希薄化が進み、家庭教育の低下や地域社会での孤立化が増えてきており、家庭教育の支援や生涯学習活動への参加を高めるという課題。

スポーツ振興では、少子化の影響でスポーツ少年団員数が減少するなど子どもたちのスポーツ離れが進んでおり、スポーツの良さや価値を実感できる機会を充実したり、高齢化による健康増進としてのスポーツ活動の普及という課題。

乳幼児教育では、核家族化・共働き世帯の増加により家庭での保育が困難な世帯や未満児保育へのニーズが増えてきており、幼稚園、保育園に子育て支援拠点の機能を充実させることや、公立園と私立園との一層の連携という課題。また、幼稚園、保育園から小学校に上がった際に環境の変化にとまどったり、なじめない児童のため、スムーズな適応を図るという課題。

学校教育では、基礎学力について家庭学習の重要性の認識が各家庭によって大きく異なっており、家庭における認識度を高めていくという課題。

地域医療では、高齢化や生活習慣病の増加に伴い病気や介護を必要とする人が増えてお

り、保健・医療・福祉・介護が連携した包括ケアの提供という課題。また、受診者の大病院志向やコンビニ受診が見られるため、かかりつけ医制度の推進という課題。

公立病院では、常勤医師のいない診療科が発生したり、産科医師の不足から分娩の制限が行われ、医師・看護師など医療スタッフの確保という課題。また、市内の二つの公立病院の役割分担の明確化と連携という課題、

文化振興では、少子高齢化の進展などによる文化・芸術活動や伝統芸能活動の後継者不足や、市民の価値観の多様化など伝統芸能への関心低下による活動の停滞が懸念されており、子どものころから文化・芸術、伝統芸能に親しみ学ぶ機会の充実という課題。

少子化・子育て対策では、出生数、年少人口が減少し、核家族化が進んでいることから、安心して子どもを産み育てる環境の更なる整備や、結婚・出産・子育てなど子どもの成長に合わせた支援を連続してどう行うかという課題。

高齢者福祉では、高齢化により65歳以上の独居世帯、高齢者世帯、介護が必要な高齢者が増加しており、健康づくりや生きがいづくり、地域での見守りや介護サービスの充実という課題。

乳幼児福祉では、発達障害の相談が増加しており、発達相談から発達支援までのワンストップサービス化という課題。

障がい者福祉では、高齢化などにより障がい者が増加しており、障がい者にサービスを提供できる施設の不足や、障がい者が住み慣れた地域で暮らすことができる環境づくりという課題。

以上のような課題を審議し、冒頭申し上げた将来都市を導き出した。

(丸山輝城副会長) 部会の皆さんから加えるところがあればお願いします。

～意見なし～

(1) ②基本構想の骨子案(資料説明：木村企画財務課長)

③総合計画基本構想政策の分野別体系(資料説明：木村企画財務課長)

(丸山輝城副会長) 委員から意見を求める。

～意見なし～

(2) 総合計画基本構想基本理念(資料説明：木村企画財務課長)

(丸山輝城副会長) 12月14日の審議会でも多くの意見をいただいて三役で協議したというプロセスを経ている。この理念についてご意見があればお願いします。

(浅井委員) 大変きれいにまとまっているという印象を持つ。各委員の意見を踏まえて全体が網羅できていると思う。開かれたまちというのがこのまちの将来を決めていく重要なポイントとして練られているのでいいと思う。資料によってバージョンの違いによる文言の相違があるので修正したほうがいい。

資料7の文言の修正は、担当部会から意見をいただくとさらにいいと思う。

(安藤広子委員) いくつか文言修正したほうがいいところがあるが、皆さんが何日も考

えたことがまとまっていてすばらしいものになったと思う。

(加藤 出委員) 相対的には素晴らしく、市民に分かりやすい文言になっているのでいいと思う。

(丸山輝城副会長) 文言修正の意見があったので、次回の審議会もあるのでご意見を預かるということをお願いします。

(丸山充信委員) 基本構想骨子の8ページのスポーツ振興に、せっかく中津川市からパラリンピックの金メダリストが誕生しているので、障がい者スポーツの推進を入れてほしい。

(加藤 出委員) 大事なことなので、入れることでいいと思う。

(3) 総合計画基本構想答申の形態(説明: 木村企画財務課長)

(丸山輝城副会長) 委員からの意見を求める。

(浅井委員) 参考資料一覧は、各部会がまとめて会長に報告した参考資料一覧とどういう関係になっているか。

(木村企画財務課長) 整合を取る形で考えています。名称などの表現は三役と相談します。

②将来都市像キャッチフレーズ(説明: 木村企画財務課長)

(丸山輝城副会長) 委員からの意見を求める。

(品村委員) いずれの案も中津川市のあるべき姿が表現されている。

(田中委員) 内容的にはいずれも人と自然が表現されているので、どの案もいいと思う。

(加藤雄一郎委員) A案がいいと思う。

(丸山輝城副会長) 迷うところがあると思うので、三役と3部会長でどうするかを一任されたいがよろしいか。

～異議なし～

(4) その他

(丸山輝城副会長) 基本構想の骨子案に障がい者スポーツの振興を加えることと、文言の修正が合意され、キャッチフレーズについて一任いただいたと確認したいがよろしいか。

～異議なし～

(丸山輝城副会長) 議事が終わったので、進行を会長をお願いします。

(大西会長) 最終案の作成について、理念、構成を三役と3部会長で協議して答申案を作成して皆さんに事前に送って確認いただいたうえで、市長に答申ができるように進めたいと思うがよろしいか。

～異議なし～

(岡山委員) 総合計画は市の規約でどのように展開していくのか。これを見直すことは

あるのか。変更のときの手続きはどうなるのか。

(島崎企画部長) 今のご質問は、市長が代わったときなどに変更が生じることがあるのではないかとのことだと思いますが、結論から言うと変更は可能ということですが、現在市の条例で議会の議決がなければ変更ができないという、非常に拘束力の強い計画なので、今までの状況を見ても大きく状況が変化した平成17年の合併のとき以外は変更はありません。

(鈴木副会長) 提案の「むすび」でどうあるべきかということを入れているので、参考にいただければと思う。

午前11時06分 閉 会

2014.2.21 佐藤
木田健夫 (西)